

バイオサイエンス学科 学会発表

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

学会名	生命科学系学会合同年次大会（ConBio2017）
演題名	mTOR阻害剤投与による胎生期バルプロ酸曝露マウスの自閉症様行動への影響
発表者	○ <u>村上浩子</u> 、 <u>小林敏之</u> 、 <u>柏井洋文</u> 、 <u>佐藤敦志</u> 、 <u>萩野洋子</u> 、 <u>田中美歩</u> 、 <u>西藤泰昌</u> 、 <u>高松幸雄</u> 、 <u>内野茂夫</u> 、 <u>池田和隆</u> 【神経生物学研究室（内野研究室）】
内容	平成29年12月6日、生命科学系学会合同年次大会（ConBio2017）（於：神戸ポートアイランド）において、村上浩子（内野研元博士研究員）が東京都医学総合研究所との共同研究結果を発表した。自閉スペクトラム症（ASD）において、高い確率で伴う先天性疾患として結節性硬化症や脆弱X症候群などが知られている。これらの疾患にはmammalian target of rapamycin (mTOR)シグナルの過剰な亢進という共通点があることから、mTORシグナルの亢進はASD要因の一つと考えられている。本研究では、胎生期に発達神経毒であるバルプロ酸を曝露させることで得られるASD病態モデルマウスにmTOR阻害剤であるラパマイシンを投与することで、ASD様行動の一つである社会性障害が改善することを見出し、その分子基盤の一端を解明した。今後ASDに対する新たな創薬研究が期待できる。
関連画像	